

国際理解教育/開発教育学習指導（活動）案

【実践者】

授業者氏名	浜元 里菜子	学校名	熊本市立出水南中学校
教科（科目）・領域	英語・道徳	対象学年（人数）	2年5組(34名)及び他2クラス
実践年月日もしくは期間（時数）	2021年10月～12月（17時間）（内 道徳2時間）		

【実施概要】

1. 単元名(活動名)：地域で暮らす外国人の方にとって分かりやすい防災マニュアルを作ろう！ Unit5 Earthquake Drill (Here We Go! ENGLISH COURSE 2 pp63-72)						
2. 実践する教科・領域： 英語・道徳		3. 学習領域				
			1	2	3	4
		A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
		B グローバル社会	相互依存	情報化		
		C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
		D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加	
4. 単元の目標（評価規準を意識して設定）： ・ have to～や助動詞must, shouldなどを正しく用いて、事実や自分の考えなどを伝え合うことができる。 ・ 集めた情報を取捨選択して地域で暮らす外国人の方々にとって分かりやすい防災マニュアルを作成する。 ・ 参加と共生の観点から社会に関わろうとする。						
5. 単元の 評価規準		①知識及び技能		・ have to ～や助動詞 must, should を使った言い方について正確に理解し、SDGs が私たちの今の社会と未来に関わっていることを理解している。		
		②思考力、判断力、表現力等		・ 集めた情報を取捨選択し、防災マニュアルを作成し、自分の考えやその理由を分かりやすく伝えている。		
		③学びに向かう力		・ 参加と共生の観点から社会に関わろうとしている。		
6. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)		【単元設定の理由あるいは単元の意義】 日本は自然災害が多い国であり、日本語が得意でない外国人の住人も地域にいるので、誰一人取り残さず、地域で安心して住み続けられるように、自分たちができることを考える機会となる。実際、2016年熊本地震が発生した際には、言語の壁や、母国での地震経験の有無などにより、外国人の方々への支援や情報が行き届かないという課題が生じた。生徒たちも自分たちが被災した際の経験と結びつけながら、地域や社会のために自分のできることを実践しようという意欲を高めることができる単元である。				
		【児童／生徒観】 生徒は6月の総合的な学習の時間のオリエンテーションで SDGs の背景や概要を学び、17 のゴールについてはある程度理解している。その第一歩として、“出水南再開発プロジェクト～安全で過ごしやすい学校・地域づくり”をテーマに「防災」「福祉」をはじめとする7つのコースで探求活動に取り組んできた。新型コロナウイルスの関係で、職場体験学習や地域との実際の関わりが例年より少ないが、地域や社会に何らかの形で貢献していきたいと考える生徒は少なくない。 熊本市には約 6700 人の外国人の方々が暮らしているが、事前アンケートによると、約8割の生徒は日常生活において地域で暮らす外国人の方々と関わることはないと答えた。地域で暮らす外国人の方々が災害時に必要な情報を十分に受け取れず、困難な状況に直面する可能性があるということを、身近な問題として捉えられていないのが現状である。				

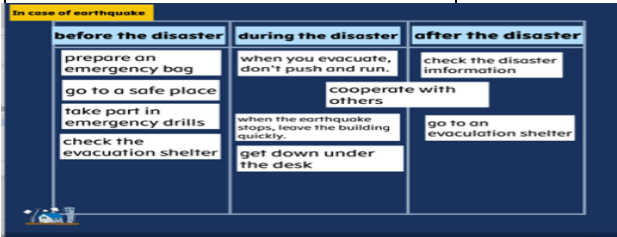
【教材観】 本単元は、新学期、防災訓練の日に合わせて、英語の授業で防災マニュアルを作成することになった登場人物達が、地震が起こったときの行動や持ち物について話し合い、帰宅後には家族と防災バッグの中身を点検する話題から構成されている。 【指導観】 教科書の本文を効果的に活用しながら、熊本地震での体験や身近で発生した問題に気づかせ、課題解決に寄与しようとする態度を養いたい。また、日本の防災への取り組みが海外で役に立っている事例を紹介し、自分達の経験や知恵が誰かの役に立つ可能性があるということにも気づかせていきたい。そして、タブレットを活用して防災マニュアルを作成し、ALTやGT(専門家等)からの評価をもらうことによって、生徒の意欲を高めていきたいと考える。			
7. 単元計画 (全 17 時間) ※全体の総時間数や「本時」の記入場所は適宜変更してください。			
時	ねらい	学習活動	資料など ※JICA リソース 活用はここに記載
1	単元の目標と概要と知り、ゴールへの見通しを持つ	・教科書本文を聞き取り、単元の概要を把握し、地域に暮らす外国人のための防災マニュアルを作成する意義に気づく	
2	【Part1 の本文内容理解】 地震発生時の行動についてディスカッションしている場面において、地震が起きたとき、しなければならないことは何かを、音声と文字から理解させる	・対話文を聞き、概要を把握する ・新出単語 ・本文中の英文から、have to～/don't have to～の用法を理解する	
3	have to ～, don't have to ～ を使った会話を聞き、話したり書いたりする	・前時の復習 ・[Listen] Nick がこれからしないといけないことを聞き取る ・[Speak] 家での決まりごとについて尋ね合い、しなければならないことや、しなくてよいことを伝えあう	
4	【Part2 の本文内容理解】 Kota たちが作成した防災マニュアルを通して、避難の際に心がけなければならないことは何か、音声と文字から理解させる	・新出単語 ・防災マニュアル(本文)を読み、TorF / Q&A で概要を捉える ・本文中の英文から、助動詞 must, must not の用法を理解する	
5	助動詞 must, must not を使ったラジオ放送を聞き、話したり書いたりする	・前時の復習 ・[Listen] 台風や雷、豪雪などの自然災害時に、しなければならないことを聞き取る ・[Speak] それぞれの自然災害が起きたときにとるべき対応を伝えあう	
6	【Part 3 の本文内容理解】 Tina, Tina のお母さん, Nick が防災バッグを準備している場面の会話を読み取らせた上で、自然災害が発生したとき、日本にいる外国人にとって、どんなことが不便なのか考える	・新出単語 ・Tina, Tina のお母さん, Nick の会話を読み、それぞれ防災バッグに何を入れるべきと伝えているのか読み取る ・本文中の英文から、助動詞 should, should not の用法を理解する	
7	助動詞 should, should not を使った会話を聞いたり、should, should not を使って話したり書いたりする	・前時の復習 ・[Listen] Tina たちがどのようなアドバイスをしあっているのか聞き取る ・[Speak] その人の状況にあったアドバイスを伝えあう	

8	【Goal 防災バッグの中身を決める】 防災バッグに入れるものの説明を聞いて内容を理解し、バッグに入れるべきものについてグループで話し合い、その結果を発表する	• Mr.Brown が防災バッグに入れるもの 5 つを正しく聞き取る • 防災バッグに入れるアイテム 11 個と自分が必要だと思うものを、シンキングツール（Y チャート）上で、must/should/don't have to の 3 つに分類する • シンキングツール（ダイヤモンドランキング）を使って、防災バッグに入りたいアイテム上位 5 つと選んだ理由を英語で述べ、意見を伝え合う	• ロイロノート (iPad) • シンキングツール
9 道徳	【(道徳)行動する建築家 坂 茂】 ・「行動する建築家 坂 茂」を読み、よりよい社会の実現のために、貢献しようとする態度を育む ・自分がこれからどんなことで社会に貢献していきたいかを考える (内容項目 C-(12)社会参画、公共の精神)	• 被災地や海外における坂さんの紙管を使った仮説住宅などの写真を見る • 教科書「行動する建築家 坂 茂」を読む • 坂さんはどんな思いから被災地を飛び回り、支援活動を行っていたかを考える • 自分がこれから、どんなことで社会に貢献していきたいかを考える	• 坂さんの仮説住宅などの写真 • 「中学道徳 あすを生きる 2」
10	熊本で今までに発生した自然災害いや起こりやすい自然災害について知り、どんな備えや対応が必要か考える	• 熊本で起こりやすい自然災害について知る • オーストラリア、ニュージーランド、アメリカ、イギリス出身の熊本市在住の ALT 6 名によるメッセージ動画を見て、地域で暮らす外国人の方々が災害への対応で心配していることや、知りたいと思っていることを理解する	• iPad • 熊本市の ALT 6 名からのメッセージ動画 • 各自治体等の防災ガイドブック
		熊本市の ALT 6 名からのメッセージ動画概要 オーストラリア人 ALT より In my country, we don't have earthquakes, so please tell me some keywords in Japanese about earthquakes. オーストラリア人 ALT より I want to learn about the evacuation site. ニュージーランド人 ALT より I want to know about the evacuation in disasters. ニュージーランド人 ALT より I don't have an emergency bag. Please tell me what should I put in my emergency bag. アメリカ人 ALT より I can't swim, so I'm scared of water. Please tell me what to do if there is a flood. イギリス人 ALT より In my county, we don't have natural disasters. Please tell me what to expect if a natural disaster happens in Japan.	

		・どの自然災害について調べるか決定し、班を構成する ・地震や台風、集中豪雨などの自然災害に対して、どんな備えや対応が必要か個人で“ウェビング”上で考える	
11	【熊本地震発生時の外国人被災者支援】 熊本地震発生時の、熊本市国際交流会館の外国人被災者支援について知る	・熊本地震時の熊本市国際交流会館の外国人被災者への支援や取り組みについて知る ・外国人特有の困り感があること気づく ・外国人の方々にとっても分かりやすい「やさしい日本語」について理解する ・「自分たちには何ができるのか」を考える	・2016 熊本地震外国人被災者支援活動報告書（第一版） ・2016 熊本地震外国人被災者支援活動報告書（第二版） ・2016 熊本地震外国人被災者支援活動報告書（第三版）
12	理由や経験を踏まえて、自然災害への備えや対応として大切なことを伝え合い、地域で暮らす外国人のための防災マニュアルを作るための骨子を考える	・地震や台風、集中豪雨など、班ごとに、どんな備えや対応が必要か“ウェビング”上で再考する ・“PMI”にツールを切り替え、災害前・災害発生中・災害後の対応または備えなのか、分類する ・災害前・災害発生中・災害後の3つの項目(時間軸)うち、どの項目で防災マニュアルを作成するか決める ・選んだ項目(時間軸)の中で、重要度と外国人の方に役に立つかという視点で優先順位をつけ、大切だと思う備えや対応を3つ選ぶ ・理由と経験を踏まえ、“キャンディーチャート”で防災マニュアルの骨子となる内容を班で考え、発表する	・iPad ・各自治体等の防災ガイドブック ・日本の防災世界でも（JICA 資料） ・Skype で世界の国々となぐ防災教育（JICA 資料）
13	防災マニュアル作成	・班で選択した自然災害に関わる防災マニュアルを作成する ・班の中で分担した項目について、それぞれが防災マニュアルの内容を作成する	・iPad ・各自治体等の防災ガイドブック
14	防災マニュアル作成	・班の中で進捗状況確認 ・防災マニュアルを仕上げる	・iPad
15	防災マニュアル作成及び発表練習をさせる	・班の中で分担し作成した防災マニュアルを、1つにまとめる ・次回の発表に向けて、防災マニュアルの発表練習を行う	・iPad
16	作成した防災マニュアルの発表会を行い、互いの発表から学びあい、コメントやアドバイスをしあうことで、さらに学びを深める	・地域で暮らす外国人のための防災マニュアルを作成する意義を再確認する ・各班で作成した防災マニュアルを紹介する ・よりよい防災マニュアルになるように、お互いにコメントやアドバイスをしあう ・ALT や国際交流員からアドバイスをもらう	・iPad

17 道 徳	【(道徳)避難所にて】 ・「避難所にて」を読み、よりよい社会の実現のために、貢献しようとする態度を育む。 (内容項目 A-(2) 調和のある生活)	・自然災害や新型コロナウイルスのような未知の感染症など、現代社会は予測困難な状況にあることに気づく ・小学3年時に熊本地震が発生した際、自分たちは「支える側」だったか、「支えられる側」だったか振り返る ・弟がポリタンクを運んでいる姿に、「私」が心を揺さぶられたのはなぜなのか考える ・次にまた困難な状況にぶつかった時、どんな行動をとりたいのかことを考える ・困難な状況の時に適切に行動するためにも、普段の行動や習慣が大切なことに触れる	・「中学道徳 あすを生きる2」
--------------	--	---	---

8. 本時の展開 (概略) 本時のねらい：have to ～や助動詞 must, should を正しく用いて、自然災害への備えや対応として大切なことを理由や経験を踏まえて伝え合い、地域で暮らす外国人のための防災マニュアルを作るための骨子を考える。			
過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
導入 5分	1 Warm-up (1)Greeting (2)Small talk Topic: "When an earthquake happens, what should we do?" (3)Review (4)Learn from role models	・単元を通して学んだ内容や、国際交流会館の方から学んだことを振り返らせる。 ・JICA の防災の専門家の方や、滋賀県の高校生の取り組みを知り、自分たちにできることを考えさせ、実践意欲を高めさせる。	・日本の防災世界でも ・Skype で世界の国々をつなぐ防災教育
展開 40分	2 Understand the lesson goal (本時の目標の確認) 【Today's Goal】自然災害への備えや対応として大切なことを理由を加えて伝え合い、外国人の方にも役に立つ防災マニュアルの骨子を考えよう。 3 Group work "What advice do you give?" (1) Group discussion <Earthquake> ・You should prepare emergency bags. ・You should get under a desk during an earthquake. ・You should go to an evacuation center. <Heavy Rain> ・You mustn't go outside. ・You must stay away from the river or the mountains. ・You should stay in a safe place. <Typhoon> ・You should check Hazard Map. ・You should check the weather information. ・You must stay away from the river or sea.	・熊本市国際交流会館の職員の方のお話を踏まえ、地震、豪雨、台風などの自然災害時に大切だと思う備えや対応について、シンキングツールを活用して考えをさらに広げさせる。(ウェビング)	・電子黒板 ・iPad ・ロイロノート

	(2) Categorize the ideas by time frame — before the disaster — during the disaster — after the disaster (3) Choose three main ideas with reasons <In case of earthquake> • You should take part in emergency drills because you can learn what to do. • You should prepare an emergency bag because you can get food and water. • You should go to an evacuation center because you can stay safe. 4 Share the ideas with the class (1) Earthquake group (2) Typhoon group (3) Heavy rain group (4) Other groups 5 Feedback and comments from JTE	 ・重要度や、外国人の方に役に立つ備えや対応なのかという視点を踏まえ、優先順位をつける。また、理由や経験を添えて意見を伝え合わせる。(キャンディーチャート)  ・互いの班の多様な意見を学び合わせ、考えを深めたり、広げたりさせる。	
まとめ 5分	6 Reflection — Fill out the self-reflection form	・意見を伝えあうことを通して、さらに自分の学びが深まることに気づかせる。	・ iPad ・ ロイロノート
9. 評価規準に基づく本時の評価（評価方法） 【知識及び技能】 have to ～や助動詞 must, should を正しく用いて、伝え合っている。（観察/タブレット） 【思考力・判断力・表現力】 理由や経験を踏まえて、様々な自然災害への備えや対応として大切なことを伝えあい、外国人の方にとっても役に立つ防災マニュアルの骨子を考えている。（観察/タブレット） 【学びに向かう力、人間性等】 自分の考えやその理由、友達のことを聞いて思ったことなどを伝えようとしている。（観察）			
10. 学習方法および外部との連携 ・ 防災マニュアルを作成する前に、オーストラリア、ニュージーランド、アメリカ、イギリス出身の熊本市在住の ALT 6 名によるメッセージ動画を視聴させた。それぞれ防災について知りたいと思っていることや母国での自然災害の有無など、動画の中で話していただき、生徒が防災マニュアルを作る動機付けにも繋がった。 ・ ゲストティチャーとして、熊本市国際交流会館の職員の方から、熊本地震発生時の外国人被災支援に関わる取り組みについて講演をしていただく機会を設け、災害時における外国人特有の困難などについて、熊本地震の状況を踏まえながらお話しをしていただいた。母国で地震を経験したことがないなど、そもそも自然災害について知らないという場合や、災害時の情報が全て日本語で必要な情報を理解できなかったことなど、生徒にとって新たな気づきや視点が多々あった。 ・ 熊本市国際課と連携し、防災マニュアルの発表会にゲストティチャーとしてアメリカ人の国際交流員を派遣していただいた。日頃交流を深めている ALT だけではなく、初めて会う英語圏出身の外国人の方に作成した防災マニュアルの内容を伝える機会を設けることで、生徒は緊張感を持ちながら、英語でより分かりやすく伝えようと意欲的に取り組むことができた。 ・ 学習者同士では、防災マニュアルの自然災害ごとで班分けし、様々な視点から互いに学びあえるように工夫した。また、班内で項目を分担させ、協働させることで、互いに助けあい、高めあいながら学習を進めさせていくことができた。			

11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み

- ・英語科および研究部の 校内研修の 1 つとして位置付け、授業を公開した。
- ・道徳をはじめとした他教科との関連を意識し、実践に取り組んだ。
- ・道徳「行動する建築家 坂 茂」の授業は、出前道徳として位置付け、2 学年全 6 クラスで授業を行った。2 年 5 組で実施した後、資料及び学習シートを家庭に持ち帰らせ、保護者にも感想などを記入してもらい、学校での取り組みを家庭にも広げる 1 つの機会となった。
- ・生徒の作品を校内掲示などで紹介し、地域や世界の防災について考えるきっかけを広く設ける。

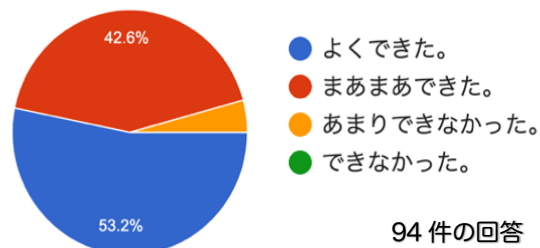
【自己評価】

12. 苦労した点	新型コロナウイルスの感染拡大防止のために、2 学期初めの 9 月前半 2 週間はオンライン授業及び分散登校、9 月中旬から 2 週間は午前授業、11 月末も 1 週間程度オンライン授業となり、今回の取り組みに関わる授業時数を十分に確保できるかどうか懸念された。そこで、当初予定していた防災マニュアル HP 作成からアウトプットの手段を変更し、生徒達が活用し慣れている授業支援アプリ“ロイロノート・スクール”を活用して防災マニュアルを作成した。また、今回は英語科の授業として実践を行ったので、日頃馴染みのない英語による防災用語の表現を難しく感じた生徒も一部いた。生徒達は iPad で用語を検索したり、班で協力して取り組み、解決しようとしていた。																				
13. 改善点	今回、防災マニュアル作成というパフォーマンス課題のツールとして授業支援アプリ“ロイロノート・スクール”を活用したが、Google Site 等の活用も可能であるとする。また、今回、英語科で実践したが、総合的な学習の時間や社会科とも連携して取り組むことにより、さらに実践的な学びにつながると考える。																				
14. 成果が出た点	本時を終えて、2 年 5 組を対象に gooogle フォームで振り返りアンケートを実施した。それによると、『今日の授業で have to や must, should など正しく使って伝えあうことができたか』という設問に対し、87.5%の生徒が「よくできた」または「まあまあできた」と回答し、大半の生徒は既習事項を活用し、授業に取り組むことができたことが伺える。 今日の授業で、理由や経験を踏まえて、様々な自然災害への備えや対応として大切なことを伝えあうことができたか。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>よくできた。</td> <td>62.5%</td> </tr> <tr> <td>まあまあできた。</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>あまりできなかった。</td> <td>12.5%</td> </tr> <tr> <td>できなかった。</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table> 32 件の回答 今日の授業で、地域で暮らす外国人のために、何かできることをしようとする態度を高めることができましたか。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>よくできた。</td> <td>71.9%</td> </tr> <tr> <td>まあまあできた。</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>あまりできなかった。</td> <td>2.1%</td> </tr> <tr> <td>できなかった。</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table> 32 件の回答 また、『今日の授業で理由や経験を踏まえて、様々な自然災害への備えや対応として大切なことを伝え合うことができたか』という設問に対し、62.5%が「よくできた」、25%が「まあまあできた」と回答した。防災マニュアルの骨子を考える際に、自分の体験や経験と関連づけながら授業に取り組んだことが伺える。 また、前日に熊本市国際交流会館の職員の方による講演があり、熊本地震発生時の外国人被災者の方々の困り感や、国際交流会館の被災者支援に関わる取り組みを学び、新たな視点に気づき、本時での防災マニュアル骨子作成に生かしていたのは成果の一つである。 さらに、『今日の授業で、地域で暮らす外国人のために、何かできることをしようとする態度を高めることができましたか』という設問に対し、96.9%は「よくできた」または「まあまあできた」と回答し、地域で暮らす外国人の方に対し、自分にできることを実践していきたいという意欲の高まりが伺える。 また、授業の感想や学んだことなどの自由記述では、「これからわかりやすい防災マニュアルを作ろうと思いました。」「今日の授業を通して、外国の方へどうしたら自然災害について知ってもらえるかを考えることができた。」	回答	割合	よくできた。	62.5%	まあまあできた。	25%	あまりできなかった。	12.5%	できなかった。	0%	回答	割合	よくできた。	71.9%	まあまあできた。	25%	あまりできなかった。	2.1%	できなかった。	0%
回答	割合																				
よくできた。	62.5%																				
まあまあできた。	25%																				
あまりできなかった。	12.5%																				
できなかった。	0%																				
回答	割合																				
よくできた。	71.9%																				
まあまあできた。	25%																				
あまりできなかった。	2.1%																				
できなかった。	0%																				

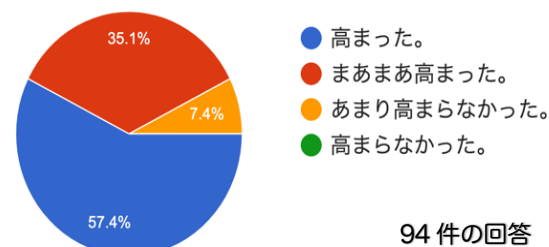
今日の学びを生かして、もし自然災害が起こった時に外国の方が困らないような方法を考え、実行したい。」「台風の備えについて当たり前のことしか書けなかった。そして、外国人の方々に対する事があまりできなかったのが外国人に対するマニュアルを作れるようにしたいです。」「昨日の(熊本市国際交流会館の)講師の先生のお話を聞いたことで、外国の方が日本で災害にあったときどんなことで困ったかなどがわかりました。それによって、自分達が今度また災害にあったときに外国の方にどのように接すればいいのかがわかったので、少しでも困っている人の役になれたらいいと思いました。」など、回答した。

今回の単元全体を終え、授業実施3クラスを対象に google フォームで振り返りアンケートを実施した。それによると、『外国人のための防災マニュアル作成と発表を通して、地域で暮らす外国人の方々が災害時に困ることなどについて、自分事(ジブンゴト)として考えることができましたか。』という設問に対して、

外国人のための防災マニュアル作成と発表を通して、地域で暮らす外国人の方々が災害時に困ることについて、自分事として考えることができましたか。



外国人のための防災マニュアル作成や発表を通して、災害時に外国人の方々も困らないように、自分に何かできることを行いたいという意欲は高まりましたか。



95.8%の生徒が「よくできた」または「まあまあできた」と回答し、今回の実践を通じて、熊本地震発生時のように、自然災害が発生した際に、地域で暮らす外国人の方々が言語や文化の壁などの要因で困難な状況に直面するということを理解し、自分の身の回りの問題として捉えることができたことが伺える。また、『外国人のための防災マニュアル作成や発表を通して、災害時に外国人の方々も困らないように、自分に何かできることを行いたいという意欲は高まりましたか』という設問に対して、92.5%の生徒が「高まった」「まあまあ高まった」と回答し、実際に

災害が起きた際に、地域で暮らす外国人の方々の助けになるような行動を行っていきたいという実践意欲の高まりが伺える。

15. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)

【第12時(本時)での生徒の学びの軌跡】

第10時で各自で考えた、災害に対しての備えや対応について、熊本市国際交流会館の職員の方の講演後の第12時(本時)で再考させたところ、生徒は外国人被災者支援という視点で新たな備えや対応を記入していた。変容が分かりやすいように、第12時では、緑色のカードに記入させた。「日本語がわからない人と一緒に避難をする」「日本語の情報を他の言語に変換する」「分かりやすく簡単な日本語を使う」「災害用語を学ぶ」など、外国人被災者向けの助言だけでなく、周りの人ができる備えや対応を書いていた。

In case of heavy rain, what advice do you give?	In case of typhoon, what advice do you give?	In case of earthquake, what advice do you give?
- Dig a ditch around the house - Don't leave home - Take in the laundry - Hold an umbrella and escape to a hill - Check the weather information - Convert Japanese information to another language and send it - Take people to a shelter	- Don't get out of the house. - Stay away from the sea. - Stay away from windows. - Watch the news. - Put things outside into the house. - Watch out for heavy rain. - Evacuate with people who do not understand Japanese. - Choose words that are easy to understand	- prepare an emergency bag - check the evacuation center - don't believe all of the information - look at the hazard map - learn about disaster prevention words - participate in evacuation drills - take action to protect yourself

また、班で協力し、災害前・災害発生中・災害後の対応または備えなのか、分類し、どの項目(時間軸)で防災マニュアルを作成するのかを選び、その項目(時間軸)の中で、特に重要だと考える備えや対応を各班で3つ選んだ。

In case of heavy rain, what advice do you give?			In case of typhoon, what advice do you give?			In case of earthquake, what advice do you give?		
before	during	after	Before	During	After	before the earthquake	during the earthquake	after the earthquake
Prepare for evacuation	Don't go out	Take foreigners to shelters	Reinforce windows	Stay home	Use easy Japanese at the evacuation center	Check the information	Don't push.	Stay away from windows
Teach foreigners how to evacuate	Immediately go upstairs		Put the bicycle in the house	Leave the window		check a weather information	You must stay calm.	keep you safe
communicate in simple English	Look at the hazard map and escape to the shelter			Leave the river		prepare emergency bag	cover your head and crouch with both arms	leave the building
	Look at the hazard map	Escape to a hill			help old people and foreign people	prepare useful things	Don't run.	act in a group
	Take in the laundry	Hold an umbrella and escape to a hill	Leave the sea	go to a higher place	Make typhoon information in English	Bring only the minimum necessary items	get in touch with family	communicate with your neighbors
						Highly rated written Japanese and English	hold on your desk	help each other
						keep an eye on small children	Get under a desk.	quickly leave home
								you must stay away from building

そして、選んだ3つの備えや対応が重要だと考える理由や経験をキャンディチャートの右側に記入した。

In case of heavy rain, what advice do you give?			In case of a typhoon, what advice do you give?			In case of earthquake, what advice do you give?		
check the hazard map	to	check for a safe place	Watch the weather forecast	to	check the damage in your area to protect your life	You should leave the building and home quickly when the shaking stops	because	there is a risk of collapse
Stay away from the sea, rivers and mountains	because	there will be a flood	Think about when you need to evacuate	to	act immediately in order not to be in a hurry	You should take an emergency bag	because	it contains useful things
prepare an emergency bag and an umbrella	because	you should evacuate	Prepare for a power outage	because	it's hard to work without a flashlight after a power outage	You should go to an evacuation center	to	keep you safe

【第16時：防災マニュアル発表会後の生徒の感想】

アメリカ人の熊本市国際交流員をゲストティーチャーとして招き、各班の発表に助言をしていただいた。生徒は初めて会う外国人ゲストティーチャーに自分たちが作った防災マニュアルが伝わるように、発表の練習を各自で重ねていた。国際交流員の方の前で英語で発表したことで、緊張感もあったようだが、相手意識も持って発表に臨み、さらに英語学習に力を入れていきたいと向上心を高めていた。また、他の班の作成した防災マニュアルを見たり、発表を聞いたりすることで、互いの良さに気づき、自分達のマニュアル作成にも生かしたいという意欲を高めていた。生徒が振り返りシートに記述した感想を紹介する。

- ・「発表はとても緊張したけれど、班のみんなで協力したことで、1回も間違えることなく終わることができた。また、ロイロノートで誰が見ても分かりやすいような防災マニュアルを作ることができたので、今回の学びを災害時に生かしていきたい。」
- ・「発表の際は、練習から分からない単語は発音を調べたりして、スムーズに伝えられるように準備をすることができた。今回このような経験ができたことに感謝して、これからに生かしていきたい。」
- ・「同じテーマでも、班によって伝えていることが少しずつ違って、面白かった。国際交流員の方の英語によるコメントは分からないこともあったけれど、その中でも自分の知っている単語や表現があって、聞き取ることができてよかった。」
- ・「大きな声でハキハキと発表することができてよかったが、文の表現など指摘を受けたので、1つの語、1つの文を意識して表現するようにしていきたい。他の班では、図の使い方や、英語だけでなく、日本語も表記するなど、幅広く使えるものもできていて、工夫が感じられた。」

【単元全体を通しての生徒の学びの軌跡】

本時を終え、各班で防災マニュアルを作成した。母国に自然災害がないという地域の外国人もいるということを理解したので、地震、台風や豪雨がどのような災害なのか、全ての班が説明を加えた。また、英語での表記だけでなく、漢字にルビ（ふりがな）を振るなど、外国人にとってやさしい日本語の表記を工夫した班もあった。さらに、熊本地震の際に、外国人被災者に災害情報が行き届かないという課題が発生したことを踏まえ、災害情報および防災情報が得られる情報サイトやアプリを紹介したり、地域のハザードマップを活用し、より地域に根差した内容で作成したりした班もあった。

What is an evacuation center?

A place to evacuate in the case of a disaster.



災害があったときに逃げる場所。

What you can get at the evacuation center

- food
- drink
- blanket
- toilet



- 食べ物
- 飲み物
- 毛布
- 持ちこたえるトイレ

Things you should take to the evacuation center

- food
- drink
- kitchenware
- medicine
- Valuables
- clothing
- Daily necessities
- Writing utensils
- cell phone
- flashlight
- 衣類
- 日用品
- 筆記用具
- 携帯電話
- 貴重品
- 懐中電灯

English Share information

6 Recommended Disaster Prevention Apps



You can also get information from this app.

Don't go out during the heavy rain



Don't leave the house



Don't approach the river



Hazard map for this area

Never go outside during heavy rains and stay calm

Typhoons

Typhoons is masses of clouds coming from above the sea on the south side of Japan. It's mainly called "hurricane" in the U.S.

It causes a very strong wind and a lot of rain, and if it continues for a long time, the danger of the river will overflow. It's dangerous, so you must stay home.



Earthquake

Earthquake cause the ground to shake, buildings to break down, and water, gas, and electricity to stop.

What should we do when an earthquake strikes?

Emergency

If the earthquake happens, you have to go evacuation center with emergency bag.

Safe behavior to protect yourself

Action when an earthquake hits

1. Drop! Get down on your hands and knees.

2. Cover! Get under a desk.

3. Hold on! Hold on to your desk.

When the shaking stops...

- Open the front door and make your escape.
- Flee to an evacuation shelter or a large.

earthquake evacuation center

There are also foreign people in the evacuation



They have own culture. It's also important to understand that.

Evacuation shelter during typhoons

台風時の避難所

- Check the disaster hazard map
- 災害時のハザードマップを確認する
- Take evacuation action as soon as you reach level 4
- レベル4に達したらすぐに避難行動をとる

(Those who take time to evacuate from level 3) (避難に時間がかかる方はレベル3から避難してください)

level

level	Types of evacuation information
5	Warning emergency safety
4	Evacuation order
3	Evacuation of elderly people, etc.

Check 5 levels in the event of a disaster!

災害時に5つのレベルをチェックしてください!

A shelter near here

この近くの避難所

Izumi Minami Elementary School / Izumi Minami Junior High School
 出水南小学校、出水南中学校
 Izumi Junior High School / Yushinkan High School
 出水中学校、湧心館高校
 Ezu Elementary School / Environmental Center
 面園小学校、環境総合センター



hazard map
ハザードマップ

今回の単元全体を終えて実施した振り返りアンケート内の設問の1つである『道徳「行動する建築家 坂 茂」、「避難所にて」、熊本市国際交流会館の勝谷さんの講演、英語での防災マニュアル作成や発表での学習を通して、何か考えたこと、学んだこと、自分の変化など具体的に書いてください。※自由記述』に対する生徒の回答の一部を紹介する。

道徳「行動する建築家 坂 茂」、「避難所にて」、熊本市国際交流会館の勝谷さんの講演、英語での防災マニュアル作成や発表での学習を通して、何か考えたこと、学んだこと、自分の変化など具体的に書いてください。※自由記述

- 「外国の方々には災害時、情報に困るということを初めて知りました。それを踏まえて英語の授業で防災マニュアルを作成することができたと思います。これから、もしも災害が起こったら、周りの役に立つ行動ができるようにしたいです。」
- 「防災マニュアル作りを通して外国人の方がどんなふうにいるのか詳しいことまで知ることができた。」
- 「海外の人は地震を受けた事がない人が多いため、私たちより地震はすごく怖い事を知りました。」
- 「自分も怖いけど、外国の方々には言葉もわからないし何言ってるかも理解できないからもっと怖いんだということがわかって自分にできることをしたいと思った。」
- 「自分達ができることは何かをよく考えた。」
- 「英語の防災の授業で、外国人は自然災害を知らない人が多いことを知ったので、今後、災害があつて、困った外国人に声をかけていきたいです。」
- 「みんなの役に立てるかどうかは、自分の気持ち次第だなと思いました。」
- 「全ての作品を通して、僕は誰かのために動けることは素晴らしいことだと思い、自分もみんなのために動けるようになりたいです。」
- 「日本だとわからないことや建築家の方の話で日本の技術が他の国で役立っていることが分かりました。」
- 「外国人に対して優しい日本語を使おうと思った。」
- 「防災マニュアル作成で、私たちが常識として動ける事でも、世界の人々にとっては経験が無いから動けないということが分かり、様々な視点から物事を見ることが出来ました。」

	・「外国の方とのコミュニケーションはとても難しいものだけど、習った簡単な日本語などで上手に関わっていききたい。」 ・「日本と外国でも文化が違うから、その辺を尊重していきたいなと思いました。」 ・「（熊本市国際交流会館の）勝谷さんの講演では、熊本地震での実際の勝谷さんご自身の経験談で、当時の自分を思い出しながら話を聞くことができた。熊本地震の時は、まだ小さかったのも、当時は外国の方々のことなど考える余裕はなくて、自分のことに精一杯だったけれどこれからは外国人の方々、高齢の方々、乳幼児、障がいを持っている方々などのことを考え、少しでも人の役に立ちたいと思った。」
16. 授業者による自由記述	今回の実践に取り組んだきっかけは、今年度から採択された英語科の教科書に“外国人のための防災マニュアルを作成する”という内容の単元が存在したということや、2016年に熊本地震が発生した際に外国人被災者への支援が行き届かなかったという課題に自分自身が問題意識を持っていたということなどである。普段、生徒達は外国人の方と接する機会は少なくとも、地域で暮らす外国人の方にも意識を向け、熊本地震での経験と関連づけながら、ジブンゴトとして課題を捉え、学習に臨むきっかけになるのではないかと考えた。近年、グローバル化が進み、熊本地震後も熊本市在住の外国人の数は増え続けている。そのような状況の中で、外国人も含め、誰もが安心して地域に住み続けられるように、一市民の立場でも周囲の手助けになるような行動を起こすことで、SDGs11「住み続けられるまちづくりを」の達成に貢献できると考える。生徒は今回の実践を通して、地域で暮らす外国人の方々が災害時にどんな壁に直面する可能性があるのか、考えを広げることができた。また、英語で防災マニュアルを作成し、実際に外国人の方の前で発表して、助言をもらうことにより、どのように表記、表現するとより外国人の方に分かりやすく伝わるのか考えを深めることができた。実際に地域で自然災害が起こった際に、外国人の方の力になったり、今回の学びを生徒自身が周囲に伝えたりすることで、多文化共生意識がさらに広がることに繋がれば大変嬉しく思う。 2016年に熊本地震が発生した時には、熊本県下の多くの学校が避難所となったり、県内外から多数支援にきてくださった姿も記憶に新しく、その当時たくさんの方々に支えられた。現代社会はまさに未来が予測困難な状況であるが、今後、自然災害が発生した際や、厳しい環境の中でも、強く立ち向かい、周囲のためにも行動を起こせるような生徒の育成に取り組んでいきたい。 今回の実践にあたり、指導案作成や研修の運営でお世話になった方々や、授業実践にご協力いただいた熊本市国際交流会館の職員の方や熊本市国際課の職員の方、国際交流員の方、JICA デスク熊本の職員の方、本校職員など、多数の方々にお世話になり、大変感謝している。

参考資料：

< 単元を通して >

- ・ Unit5 Earthquake Drill (Here We Go! ENGLISH COURSE 2 pp63-72)

< 第 11 時 >

- ・ 2016 熊本地震外国人被災者支援活動報告書（第一版）
- ・ 2016 熊本地震外国人被災者支援活動報告書（第二版）
- ・ 2016 熊本地震外国人被災者支援活動報告書（第三版）

< 第 12 時 >

- ・ 日本の防災 世界でも（毎日小学生新聞「共につくる 私たちの未来」JICA 資料）

<https://www.jica.go.jp/hiroba/teacher/report/press/jhqv8b0000037xw3-att/mainichi20170514.pdf>

- ・ Skype で世界の国々となぐ防災教育（「生きる力」を育む国際理解教育実践資料集 JICA 資料）

https://www.jica.go.jp/hiroba/program/practice/education/materials/jhqv8b000005wd9w-att/materials_all.pdf

< 第 9・17 時 >

- ・ 「中学道徳 あすを生きる 2」 日本文教出版

Let's make an emergency manual for foreign people.

What can we do for foreign people in our city ?

1

Small Talk

Today's topic

When an earthquake happens,
what should we do?

2

Why did foreign people feel uneasy?

- They had never experienced an earthquake.
- Most of the disaster information was only in Japanese.
- They feel alone at a shelter.

3

What can we do?

4



JICA 長期防災専門家
山越 隆雄さん

5

日本の防災 世界でも

防災プロジェクト：山越隆雄さん
JICA 長期防災専門家：山越隆雄さん
日本の防災は、ブラジル政府が主催する防災プロジェクトの支援です。日本では、土砂災害や土砂崩れなどの土砂災害対策の専門家として防災を支援しています。また、防災プロジェクトを通じて、ブラジル政府が主催する防災プロジェクトの支援を行っています。日本では、土砂災害や土砂崩れなどの土砂災害対策の専門家として防災を支援しています。また、防災プロジェクトを通じて、ブラジル政府が主催する防災プロジェクトの支援を行っています。

▲土砂災害の危険性▲
土砂災害は、大雨や台風などの自然災害によって発生します。土砂災害は、人命や財産の被害を及ぼす可能性があります。土砂災害の危険性を減らすためには、防災対策が必要です。日本では、土砂災害の危険性を減らすための防災対策を行っています。日本では、土砂災害の危険性を減らすための防災対策を行っています。

▲土砂災害の危険性▲
土砂災害は、大雨や台風などの自然災害によって発生します。土砂災害は、人命や財産の被害を及ぼす可能性があります。土砂災害の危険性を減らすためには、防災対策が必要です。日本では、土砂災害の危険性を減らすための防災対策を行っています。日本では、土砂災害の危険性を減らすための防災対策を行っています。

6

SDGsには、災害に
も負けない住むたす

11 住み続けられる
まちづくりを

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標
持続可能な開発目標 SDGs
(Sustainable Development Goals)
2015年に国連の場で加盟国が決めた30年までの世界の目標です。

より良いまちへ

う。 なるために、私たちはど
んなことができるでしょ
う。

とーな。
身たちのまがへ、
人みんなとより良
くなるために、私
たちはど
んなことができる
しょう。

すべてが、安全で快適に住
み続けられるまちづくりを
目指します。
例えば、高齢者や障
害を持った方にも使い
やすい、バスや車などの公
共交通機関をつくること
▽災害による被害や不安を
減らし、地域の人が話
し合いながら、安全なまち
づくりの計画をきどく
大気汚染や水の問題、極
端な気象などの問題、極
まされること、きれ
いな環境のまちをつくるこ
と。

7

**インドの高校生と防災への取り組みを
紹介し合う滋賀県米原高校の生徒**

避難する際の準備を海外に発信する米原高校の生徒

インドの高校生と防災への取り組みを紹介し合う

8

11 住み続けられる
まちづくりを

What can we do?

9

**Let's make an emergency manual
for foreign people.**

Illustration of children holding a globe.

10

In case of earthquake, what advice do you give?

Illustration of a house being shaken by an earthquake.

11

In case of earthquake, what advice do you give?

例

- take part in emergency drills
- prepare an emergency bag
- check the disaster information
- get down under the desk
- go to an evacuation shelter
- when the earthquake stops, leave the building quickly.
- check the evacuation shelter
- go to a safe place
- cooperate with others
- when you evacuate, don't push and run.

Illustration of a house being shaken by an earthquake.

12

In case of typhoon, what advice do you give?



Blank boxes for advice:

13

In case of typhoon, what advice do you give?



check the weather information
go into a nearby building
stay away from the river and sea
bring in outdoor plants and objects
prepare water and food
write down important phone number

14

In case of heavy rain, what advice do you give?



Blank boxes for advice:

15

In case of heavy rain, what advice do you give?

例



learn how to safely clean up
check the weather information
evacuate to the second floor
stay away from the river and mountains
bring your emergency bags

16

Share your ideas with your group



17

In case of earthquake

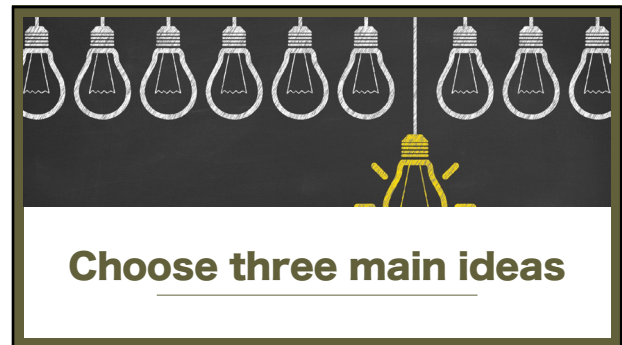
before the disaster	during the disaster	after the disaster



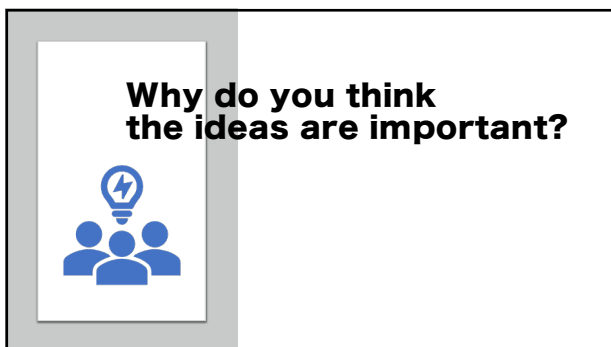
18

In case of earthquake		
例	before the disaster	during the disaster
	prepare an emergency bag	when you evacuate, don't push and run.
	go to a safe place	cooperate with others
	take part in emergency drills	when the earthquake stops, leave the building quickly.
	check the evacuation shelter	get down under the desk
		check the disaster information
		go to an evacuation shelter

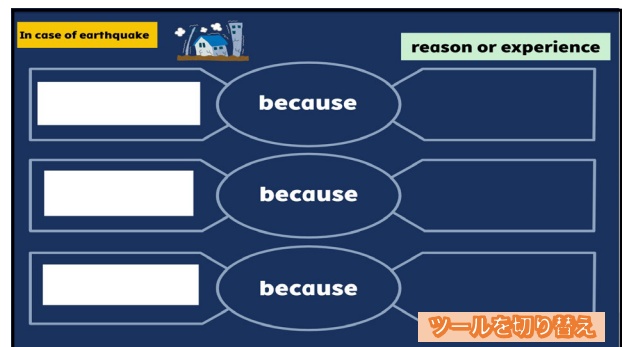
19



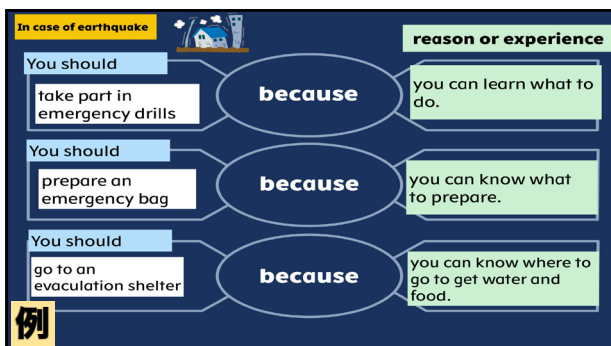
20



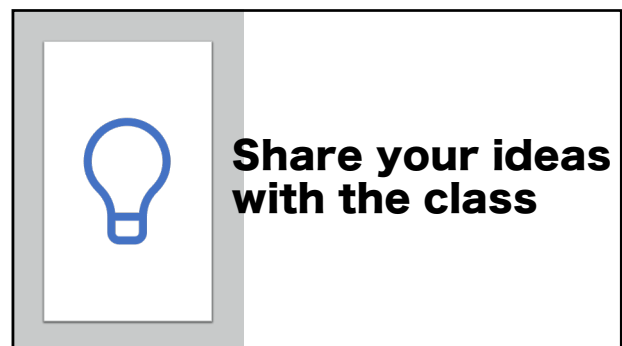
21



22



23



24